

比喩表現

今回の学習のポイント

- ① さまざまな比喩表現を知る
- ② 比喩表現の効果とは？

さまざまな比喩表現を知る

「比喩」とは、ある物事について別の何かに見立て、たとえる表現のことです。比喩表現は、特に物語やエッセイなど、文学的文章において用いられる表現技法のひとつですが、具体的にどのようなように使われるのかを学習していきます。

■ 比喩法の例

番組では、比喩の例として「直喩」「隱喩」について取り上げます。それぞれについて理解しておきましょう。

1. 直喩 (明喩)

ある対象について表現する際、「(まるで)○○のような」「○○みたいな」などの語を使って、別のものにたとえていることをはっきりと示す方法です。

〈例〉「彼女はまるで雪のような肌を持ち主だ。」

「彼の心は氷みたいに冷たい。」

2. 隱喩 (暗喩)

「○○のような」などの語を用いず、たとえの表現だということをはっきり示さずにたとえる方法です。

〈例〉「私にとってあなたは輝く星だ。」

「彼はガラスの心を持っている。」

● 「直喩」と「隱喩」の違い

ア「あの人は悪魔のようだ。」
イ「あの人は悪魔だ。」

アは直喩、イは隱喩です。「くようだ」という語によって少しやわらかな印象を生む直喩より、隱喩による表現のほうが、読み手に対し鋭く、強い印象を与えます。

国語監修・執筆

中澤 匠吾

【発展】
直喩、隠喩のほかにも、以下のような喩法があります。（研究によって喩の種類、その分類のしかたは異なります。）

▼換喩かえゆ

言い表そうとする事物について、それと密接に関連するもので表現する方法です。

〔例〕「シヨパンを聴く」 ↓ 「シヨパン」という人物のことでなく、

シヨパンが作った楽曲のことを表している。

〔例〕「永田町の論理」 ↓ 「永田町」は単に地名を言っているのではなく、「国会」「政界」のことを表している。

▼提喩ていゆ

全体を表す言葉に代えてその一部を示す言葉でたとえる方法。また、その逆に、一部を示す言葉に代えて全体を示す言葉でたとえる方法です。

〔例〕「彼女は大きくて高価な石に目がない。」

↓ 「石」という全体を示す言葉で「宝石」を表している。

〔例〕「忙しくて手が足りない。」

↓ 「手」という部分を示す言葉で「（仕事を）する（人）」を表している。

▼擬人法

人間以外のものや現象を人間に見立てて表現する方法です。

〔例〕「風がささやいている。」

「今にも空が泣きだしそうだ。」

擬人法によって、現象を生き生きと描写することができます。

比喩表現の効果とは？

番組では、「時間」をテーマにした比喩表現に注目します。

日常的に見たり聞いたりすることのある「時間が流れる」という表現。これもよく考えてみると、比喩表現といえます。「時間」は目に見えず、つかまえることもできない、とらえどころのない存在です。その概念、状態を言葉で説明することはとても難しいのです。そこで、シ時クが移り変わっていくことを、水や川の「流れ」にたとえてみることで、私たちは「ああ、なるほど」と納得することができますようになります。「時間が流れる」という表現がしっくりとなじむわけです。

このように、比喩によって理解しにくい物事がわかりやすくなったり、イメージしやすくなったりするという効果があります。

まとめ

比喩表現を用いることで、読み手に伝えようとする内容をより生き生きと表し、印象を強めることができます。平坦な文を豊かなものにするのに有効な表現技法です。番組では、独自に「○○のような人」というたとえを作って、そこからイメージをふくらませる遊びにもトライします。こうしたオリジナルの比喩表現を作ってみるのもおもしろく、それが的を射たものであれば、読み手の想像力を刺激し、理解を助けることにもつながります。

また、今回学習する比喩表現による工夫については、みなさんが実際に作文をする際にも生かせるものです。表現の効果についての理解を深め、表現力をより豊かなものにしていきましょう。